



合志市立西合志南小学校 学校だより  
たれかのために、じぶんのために、いっしょうけんめい

# 西南風

# もっと良くなる!

朝は涼しいが昼は汗ばむような強い日差しになり、新緑は益々青々と茂り、埃っぽいグラウンド、そんな運動会の季節が、またやってきました。

運動会を中心になって作り上げていくのは、もちろん子どもたちではありませんが、職員を中心とする体育主任は初任三年目の**本田華子**教諭です。本校ではここしばらく初任三年目が体育主任を任されるような流れになっていきます。初任三年目がやらなければならぬという訳ではありませんが、通常初任から三年経つとほとんどの場合異動になるので、次の学校へ異動する前に経験を積ませる目的で、体育主任を任せるということがよくあります。昨年も三年目の職員でした。

昨年運動会までの体育主任としての動きをじっと見ていました。最初は自信なさげな指示や動きでしたが、日が経つ毎に語気が強くなり、児童へも職員へも堂々と指示ができるようになっていきました。その姿を見ながら、私自身の昔のことを思い出したものです。何を隠そう、私も初任三年目は体育主任でした。トラックの入場行進から始まる当時の運動会は、練習の大半を入場行進、開閉開式の練習に費やしました。やはり最初は自信のなさや恥ずかしさから、指示が後手後手だったり語気が弱かったりで、子どもや職員に伝わらないこともありました。しかし、思うようにならない悔しさや、うまく指示が出来ない自分への苛立ちが、自信のなさや恥ずかしさを忘れさせてくれました。気づけば大声で全校児童を睨みつけながら、檄を飛ばしていました。(私としてはそのつもり)また、その年は、運動会前の数日間、雨が降るのか降らないのかはつきりしない天気が続く、そのことにも苛立ちました。今思えば、主任として上手く出来ない自分への悔しさや天気への苛立ちは、任された責任の重さから感じられるものであったと思います。ともあれ、そんな私でも無事運動会を実施することができました。諸先輩方の支えがあったからです。

初夏の爽やかな昼下がりに子どもたちの応援練習の声。いいものです。



そう、本校にも支えてくれる先輩教師たちが大勢いるのです。まさに昨年体育主任を経験した者を含む同年代の若手、主任の経験はずいぶん前だが体育に関して黙っちゃいけないという心は若手、そして、見守るよりもそういう若手集団にどうしても入り込みたくなる永遠の若手。最後にその様子を遠くから生温かく見守るベテラン。それらが渾然一体となつてグラウンドの準備は、和気藹々と進められていました。(グラウンドのポイント打ちでは、お忙しい中大勢の保護者の皆さまのご支援をいただきました。大変ありがとうございました。感謝申し上げます)

上のタイトル写真が初めての全体練習の様子です。全校児童八六三人を目の前にして、指令台上の本田華子体育主任はどんな心境だったでしょうか。私は校舎側フェンス下の雑草を引きちぎりながら、児童の様子とともに本田教諭の様子も見ていました。彼女にとっては全体練習の一つ一つが、責任の授業です。全体練習でどのように指示するか、評価するか、状況に応じて練習をどう進めていくかを事前から考え続けていたでしょうが、この時は八六三人の児童と六〇名の職員の視線を一身に受けながら、頭はフル回転していたでしょう。時折、「黙っちゃいけない心は若手」が、間に入って指示や檄を飛ばしたりします。整列する全校児童の中で各職員が行う局地的な指導もあり、時折その声が響くこともあります。その様子を草をむしりつつ背中で見守り、分かった風な顔をして時折うなずく

校長。これが西南小運動会チームです。本田主任の全体練習最後のコメントです。

「初めてとしては、よくできました! 合格です!」  
目指す姿とのギャップはまだまだ大きいでしょう。そんな中でも、認め、褒め、励まします。これから残り約一週間の、児童八六三人と職員六〇人との本気のやりとりが、当日の感動を生みだすでしょう。  
体育主任も児童も、これからもっと良くなるはずですよ。